



確かな学力の向上をめざして【10月】

■子どもの成長を共に支援していく関係づくり

子どもに効果的な支援をしていくためには、学校と保護者が情報を共有し、お互いに理解し合いながら、協力して子どもに対応していくことが大切です。保護者の思いに寄り添い、子どもの成長を共に支援していく関係を築いていきましょう。

保護者の不安な思い



1

保護者の立場に立って伝えたり、聴いたりしましょう！

重要なのは、まず信頼関係を構築すること。会話の機会を多く設けたり、連絡帳を活用したりする中で、気になる点だけではなく、子どもの長所、頑張っている点についても情報交換を行い、保護者が話しやすく相談しやすい環境を作りましょう。また保護者から子どもへのかかわり方のコツ等を聞き、学校での支援に生かすことも大切です。

2

子どもの困り感をもとに具体的に説明をしましょう！

「他の友だちが困っている。」「教員が対応に困っている。」という視点でなく、その子ども自身が、「～するのに困っている様子だったので、こんな対応をしました。」と伝えることがポイント。そして、その後の子どもの様子や気持ちも説明しましょう。よりよい支援のあり方を一緒に考えていきたいという学校の思いが伝わると、協力体制が組みやすくなります。

3

情報を共有して統一した対応をしましょう！

気になる点は関係職員や校内委員会で情報共有し、共通理解のもとで保護者に伝えましょう。みんなで情報共有することにより、有効な支援策を考えることができます。また、対応を統一させることで保護者を不安にさせることを未然に防ぐことができます。

4

言葉で心をつなぎましょう！

《保護者が傷つく言葉》

- ▲他の子どもに迷惑をかけています
- ▲発達障がいかもしれません
- ▲心配しすぎ、気にしすぎですよ
- ▲その配慮や支援は引継ぎで聞いていません
- ▲他にも手がかかる子どもがいるので、大変なんです
- ▲特別扱いはできません
- ▲将来が心配です



他の子と比べてできないことを次々と伝えたり、納得がいく説明をしないまま、医療受診を勧めたりするのはNG！

《保護者の支えになる言葉》

- いつでも相談にのりますよ
- 育て方のせいではありません
- こんな良いところがありますよ
- こんな支援を試みたらうまくいきましたよ
- 一緒に良い方法を考えていきましょう
- 引継いだ支援はやっていきますから、安心してください
- 教えてもらった対応をしたら効果がありました



日々の子育ての努力に対するねぎらいの言葉も支えになります。小さな成長に気づき、ともに喜び合える関係に！